

2023年度

専門学校北海道福祉・保育大学校 保育未来学科

授業科目 (科目ID)	教育原理	担当教員 (実務経験)	本間 敦志 有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/>		
対象年次・学期	1年・後期	必修・選択区分	必修	単位数	2単位
授業形態	講義	授業回数(1回90分)	15回	時間数	30時間
授業目的	「教育」という営みは、人間が人間として生まれ育つ過程で必ず出会う大切な事柄であることを、具体的に現状に即した内容を通して理解する。また、学校や家庭で行われる「教育やしつけ」を通して人を育てることの重要性について問題意識や課題意識をもつ。				
到達目標	教育の重要性が実感でき、授業で学んだ知識・技能等を社会(現場)に出たから活かすことができる。				
テキスト・参考図書等	毎時、資料等を配布する予定				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	80%	・定期試験・授業内での課題への取り組み状況・授業への参加状況		
	レポート	20%			
	小テスト	%			
	提出物	%			
	その他	%			
履修上の留意事項	プリントに基づく講義を中心に課題について話し合いを行います。、「教育」というと堅苦しいイメージがありますが、人間が人間らしく成長する喜びの営みであることを理解してほしいです。人間はだれでも素晴らしい素質をもって生まれてくるのですから、「環境」や「指導」によって、その素質が花開くことを具体的な事例からわかってもらえたら幸いです！				
履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	はじめに	オリエンテーション、教育原理とは？教育とは？学校とは？		
	2	教育の目的、教育の全体的概念	歴史的・文化的視点、教育の基礎・基本		
	3	発達と教育の関連、教育の方法	乳幼児期の教育の特性、学習のしつけ、生活のしつけ、遊び		
	4	教育の目的・法律と行政	教育を規定する法律		
	5	子ども観の変遷、人間形成と家庭・地域社会	「子ども観」の変遷、地域のなかで育つ子ども		
	6	子どもの権利条約	権利条約の内容		
	7	情報化と子どもの生活、危機管理	情報モラル、子どもを取り巻く情報環境、危機管理の対応		
	8	教員に求められる専門性	資質、能力、実践力の向上		
	9	道徳性のはぐくみ(心の教育)＜子ども理解＞	道徳性のはぐくみ、心の教育からはぐくみへ、子ども理解のあり方		
	10	子どもをはぐくむケアと教育、人間形成と家庭・地域社会	ケアをする人として育つ、連携のあり方		
	11	教育実践の基礎	カリキュラム、評価のあり方		
	12	さまざまな教育実践、教育思想	フレーベル、ルソー、ペスタロッチ、倉橋惣三等の思想、教育のとらえ方		
	13	これからの暮らしと「教育」という営み	生涯学習の基本的な考え方		
	14	現代の教育課題	いじめ、不登校、体罰等		
15	まとめ	今後の教育課題、将来像等			

2023年度

専門学校北海道福祉・保育大学校 保育未来学科

授業科目 (科目ID)	保育の心理学		担当教員 (実務経験)	長谷川 香 有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/>	
対象年次・学期	1年・前期		必修・選択区分	必修	単位数 2単位
授業形態	講義		授業回数(1回90分)	15回	時間数 30時間
授業目的	こどもの発達にかかわる心理学の基礎を学び、発達を捉える視点やこどもへの理解を深める。				
到達目標	心理学的基礎知識を保育の現場でいかすことの素養を身につける。				
テキスト・ 参考図書等	保育の心理学/長谷部比呂美・日比暁美・山岸道子・吉村真理子/ななみ書房				
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	70%	定期試験、小テスト、提出物、ワーク参加状況を総合して評価します		
	レポート	%			
	小テスト	10%			
	提出物	10%			
	その他	10%			
履修上の 留意事項	板書、テキスト及びプリント、必要時に視聴覚教材を使用します。心の発達など心理学的基礎知識を持つことは大切なことです。保育実践のなかでそれがどのようにかかされているのか学んでほしいと思います。				
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション	講義の進め方		
	2	こどもの発達理解(1)	子どもの発達を理解することの意義		
	3	こどもの発達理解(2)	発達の原理		
	4	こどもの発達理解(3)	発達と環境		
	5	こどもの発達理解(4)	こども感、保育感		
	6	こどもの発達過程(1)	情動的発達		
	7	こどもの発達過程(2)	道徳性の発達		
	8	こどもの発達過程(3)	動機付けの発達		
	9	こどもの発達過程(4)	身体的機能と運動機能の発達		
	10	こどもの発達過程(5)	知覚・認知の発達		
	11	こどもの発達過程(6)	ことばの発達		
	12	こどもの学びと保育(1)	社会性の発達、こどもの生活と人間関係		
	13	こどもの学びと保育(2)	乳幼児期の学びに関わる理論		
	14	こどもの学びと保育(3)	乳幼児期の学びの過程と特性		
15	まとめ	乳幼児期の学びを支える保育			

2023年度

専門学校北海道福祉・保育大学校 保育未来学科

授業科目 (科目ID)	こどもの保健		担当教員 (実務経験)	髙田 美穂子 有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/>	
対象年次・学期	1年・通年		必修・選択区分	必修	単位数 2単位
授業形態	講義		授業回数(1回90分)	15回	時間数 30時間
授業目的	子どもの健全育成を目指し、子どもの位置づけと発達を理解し子どもならではの病気やけがの傾向・特徴の基礎的知識・技術を習得する。				
到達目標	乳幼児の健康問題に関心を持ち、保育士に求められる社会的ニーズについて学ぶとともに、子どもの病気やけがに知識をもって対応できる。				
テキスト・ 参考図書等	子どもの保健テキスト／小林 美由紀 編／診断と治療社				
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	80%	定期試験、グループワーク参加状況を総合して評価します。		
	レポート	%			
	小テスト	%			
	提出物	%			
	その他	20%			
履修上の 留意事項	教科書と授業内容に沿った配付資料、グループワークを行います。簡単な小テスト、提出物、感想などを求めることがあります。乳幼児の健康問題に関心を持ち、常に新しい情報をキャッチすることを期待します。				
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	子どもの健康と保健1	保健活動の意義と目的		
	2	子どもの健康と保健2	子どもの出生と母子保健の意義		
	3	子どもの健康と保健3	現代社会における子どもの健康に関する現状と課題		
	4	子どもの発育・発達と保健1	子どもの身体発育と運動機能の発達		
	5	子どもの発育・発達と保健2	生理機能の発達と生活習慣		
	6	保健活動と虐待防止	地域における保健活動と子どもの虐待防止		
	7	健康状態の把握	子どもの健康状態の観察と体調不良時の把握		
	8	子どもの病気1	子どもの免疫の発達と感染症の特徴		
	9	子どもの病気2	感染症の予防及び適切な対応		
	10	子どもの病気3	救急疾患の特徴と適切な対応		
	11	子どもの病気4	新生児の病気、新生児期にわかる先天性の病気の特徴と対応		
	12	子どもの病気5	アレルギー疾患の特徴と適切な対応		
	13	子どもの病気6	慢性疾患の特徴と適切な対応		
	14	子どもの健診、家族支援	集団検診と健康診断、子どもの家庭支援		
15	保健福祉行政 まとめ	母子保健事業、要点と確認のまとめ			

2023年度

専門学校北海道福祉・保育大学校 保育未来学科

授業科目 (科目ID)	保育内容演習 I		担当教員 (実務経験)	石垣 あけみ 有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/>	
対象年次・学期	1年・前期		必修・選択区分	必修	単位数 1単位
授業形態	演習		授業回数(1回90分)	15回	時間数 30時間
授業目的	幼児期における造形表現の特徴を理解し、色や形やものを通して子どもとふれ合う保育者としての実践力を培う。				
到達目標	・造形素材の基本を理解し、実践できる。・幼児の発育に応じた、適切な支援ができる。・安全に十分配慮した環境を準備し、制作ができる。				
テキスト・ 参考図書等	幼児造形の基礎／樋口一成 編著／萌文書林				
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	%	<提出物> ・作品の完成度 <その他> ・実技演習の意欲・関心・態度 ・実技演習の理解度・実施度		
	レポート	%			
	小テスト	%			
	提出物	50%			
	その他	50%			
履修上の 留意事項					
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション 子どもの造形表現①	講義の進め方等 子どもの特性と表現の特徴について		
	2	子どもの造形表現②	子どもの特性と表現の特徴について		
	3	描く…基本①	クレヨンをつかって		
	4	造形遊び①	新聞とのりをつかって		
	5	描く…基本②	クレヨンと折り紙をつかって		
	6	造形遊び②	はさみをつかって		
	7	水彩絵の具の基本①	水彩絵の具の基本と活用		
	8	水彩絵の具の基本②	水彩絵の具の基本と活用 いろいろな表現と組み合わせ		
	9	造形遊び③	紙などをつかって		
	10	子どもの心で	折り紙と描画のコラボ		
	11	子どもの表現の世界をひろげる①	不思議の世界をイメージする①		
	12	子どもの表現の世界をひろげる②	不思議の世界をイメージする②		
	13	作品集の製作①	カッターを使って		
	14	作品集の製作②	表現を生かしてつくる		
15	作品集の発表・振り返り	表現したことをもとに発表会 ・講義の振り返り			

授業科目 (科目ID)	保育内容演習Ⅱ		担当教員 (実務経験)	櫻井 かおる 有 <input type="checkbox"/> 無 <input checked="" type="checkbox"/>	
対象年次・学期	1年・通年		必修・選択区分	必修	単位数 2単位
授業形態	演習		授業回数(1回90分)	30回	時間数 60時間
授業目的	保育の現場では、幅広い音楽の知識をもって実践できることが望ましい。本科目では、音楽理論の基礎と様々な音楽表現活動を学び、実践できる力を養う。				
到達目標	・音楽理論における基礎的なリズムや楽語、楽譜の読み方を理解し、楽器演奏、歌唱、身体表現ができる。・楽器の扱い方を理解し、演奏できる。・グループ活動において、積極的に取り組み、円滑なコミュニケーションを図りながら、本番に向けて計画的に練習と考察を重ねることができる。				
テキスト・参考図書等	改訂 ポケットいっぱいのうた／鈴木恵津子、富田英也／教育芸術社				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	・実技(10%)・レポート(20%)・小テスト(10%)提出物(10%)その他～器楽合奏状況等(50%)		
	試験(実技)	10%			
	レポート	20%			
	小テスト	10%			
	提出物	10%			
その他	50%				
履修上の留意事項	保育の実践で必ず必要とされる教科です。個々の音楽能力を伸ばし、毎回実習などで実践できる内容を行ないますので、休まず受講しましょう。音楽の楽しさや美しさを子どもたちに伝えていくには、まず自らが音楽を愛し、技能を高める必要があります。積極的に参加し、音楽の楽しさをたくさん体感してください。				
履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	音楽の基本	領域「表現」における音楽表現について 基礎的な音楽理論について学ぶ 楽譜を読み解く		
	2	音楽の基本	音楽表現、リズムについて		
	3	音楽の基本	リズムを楽しむ		
	4	音楽の基本	リズムを楽しむ		
	5	音楽の基本	リズム・わらべうた		
	6	ボディパーカッション	リズムを身体で表現する		
	7	歌唱・合唱	腹式呼吸や発声のメカニズムを体感しながら歌う		
	8	歌唱・合唱	指揮法を学び、声を合わせて歌う		
	9	歌唱・合唱	保育園で歌われることの多い生活の歌を歌う		
	10	楽器について学ぶ	さまざまな楽器に触れ、その特長や演奏法を学ぶ		
	11	楽器について学ぶ	さまざまな楽器に触れ、その特長や演奏法を学ぶ(器楽合奏)		
	12	楽器について学ぶ	さまざまな楽器に触れ、その特長や演奏法を学ぶ(器楽合奏)		
	13	歌唱・合唱	2部合唱、3部合唱		
	14	歌唱・合唱	2部合唱、3部合唱		
	15	歌唱・合唱	保育園で歌われることの多い行事の歌を歌う		
	16	器楽合奏	トーンチャイムの演奏法を学ぶ		
17	器楽合奏	トーンチャイムでの合奏			

履修主題・履修内容	18	創作ダンス	こどものうたに合わせた簡単なダンスを創作する
	19	歌唱・合唱	ハーモニーを感じながら、歌う楽しさを味わう
	20	歌唱・合唱	ハーモニーを感じながら、歌う楽しさを味わう
	21	クリスマス・コンサートに向けて	プログラム立案、グループによる練習
	22	クリスマス・コンサートに向けて	グループによる練習
	23	クリスマス・コンサートに向けて	グループによる練習
	24	クリスマス・コンサートに向けて	グループによる練習
	25	クリスマス・コンサートに向けて	リハーサル
	26	クリスマスコンサートを終えて	クリスマスコンサート振り返り・ビデオ鑑賞、レポート作成
	27	オペレッタについて学ぶ	演目決定・ビデオ鑑賞
	28	オペレッタについて学ぶ	台本作り・台本読み
	29	オペレッタについて学ぶ	グループワーク、発表
	30	総まとめ	まとめ、レポート作成

2023年度

専門学校北海道福祉・保育大学校

保育未来学科

授業科目 (科目ID)	保育内容総論		担当教員 (実務経験)	坪田 清美 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 保育士として認定こども園に勤務	
対象年次・学期	1年・後期	必修・選択区分	必修	単位数	1単位
授業形態	演習	授業回数(1回90分)	15回	時間数	30時間
授業目的	五領域、科目別に学び進めてきた部分が保育の現場で、どう総合的に展開してゆくのかを学び実践力をつける。				
到達目標	現場での実践力がつく。				
テキスト・ 参考図書等	プリント配付				
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	80%	定期試験、授業への参加態度を総合して評価します		
	レポート	%			
	小テスト	%			
	提出物	%			
	その他	20%			
履修上の 留意事項	プリント・板書・視聴覚機器、現場のにおいのする楽しい授業を目指します。				
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	総合的に保育すること	領域を越え展開される実際の保育を知る		
	2	親子の置かれている現状	家庭・地域・社会の中の親子の姿を知る		
	3	親子の置かれている現状	家庭・地域・社会の中の親子の姿を知る		
	4	保育ニーズの多様化	社会構造との関わり、子どもの立場からも考える		
	5	保育ニーズの多様化	社会構造との関わり、子どもの立場からも考える		
	6	家庭援助と保護者との関わり	共感的理解、子育て・親育ち、パートナーシップ		
	7	保育現場のマナー・マニュアル	ビデオを使って		
	8	保育現場のマナー・マニュアル	ビデオを使って		
	9	保育現場のマナー・マニュアル	実際のマニュアルから		
	10	保育指針とカリキュラム	指針の理解を深め、カリキュラムの実際を知る		
	11	保育指針とカリキュラム	指針の理解を深め、カリキュラムの実際を知る		
	12	保育指針とカリキュラム	指針の理解を深め、カリキュラムの実際を知る		
	13	主体的に仕事をするということ	チームワーク、企画力、楽しく仕事をするために		
	14	主体的に仕事をするということ	チームワーク、企画力、楽しく仕事をするために		
15	まとめ	保育士としての総合的なレベルupを確認			

2023年度

専門学校北海道福祉・保育大学校 保育未来学科

授業科目 (科目ID)	乳幼児保育 I		担当教員 (実務経験)	平原 由衣 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 保育士として保育園に勤務	
対象年次・学期	1年・通年		必修・選択区分	必修	単位数 2単位
授業形態	講義		授業回数(1回90分)	15回	時間数 30時間
授業目的	乳児保育の意義・目的及び、重要性などを理解し、多様な保育の場における乳幼児保育の現状と課題について学ぶ。				
到達目標	乳児保育の必要性や基本的な知識を理解した上で、乳幼児保育の現状と課題について説明できる。				
テキスト・ 参考図書等	講義で学ぶ乳児保育／小山明子(編著) 亀崎美沙子 善本真弓／わかば社				
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	70%	・授業での積極性、グループワーク等に対する参加意欲(10%) ・筆記試験による評価(70%) ・レポートや提出物とその内容(20%)		
	レポート	10%			
	小テスト	9%			
	提出物	10%			
	その他	10%			
履修上の 留意事項	・教科書を中心にプリント資料を活用しながら、ディスカッション等を通して理解を深める。 ・社会から求められる保育士となるよう、乳幼児への理解や必要な知識を学ぶ。				
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション 「乳幼児保育」とは何か	授業概要の説明 乳児保育の目的・役割・実施体制などについて		
	2	乳児保育の基本①	乳児保育の歴史の変遷・背景などについて		
	3	乳児保育の基本②	乳児保育のニーズの高まり・多様な場における乳児保育の展開		
	4	0,1,2歳児の発達	人とかかわっていくことについて(アタッチメントやコミュニケーションなど)		
	5	0歳児の保育内容	0歳児の発達の特徴・保育内容について		
	6	乳幼児の成長発達をふまえた保育①	3歳未満児の生活と環境をふまえた保育内容について		
	7	乳幼児の成長発達をふまえた保育②	3歳未満児の遊びと環境について		
	8	乳幼児の成長発達をふまえた保育③	乳児の生活の基本について		
	9	乳幼児の成長発達をふまえた保育④	3歳以上児の遊びと環境について		
	10	乳幼児の成長発達をふまえた保育⑤	乳幼児保育の環境構成について		
	11	発達・発育をふまえた保育者による配慮・援助や関わり	3歳未満児の発達・発育をふまえた保育者による配慮について		
	12	乳幼児保育における全体的な計画	乳幼児保育での全体的な計画と指導計画について		
	13	乳児保育における子育て支援	乳児保育での子育て支援の実際について		
	14	乳幼児保育における連携	職員間・保護者間・関係機関との連携・協働について		
15	一人一人を健やかに育てていくために 授業のまとめ	保育者としての専門性と資質向上について 授業の振り返りとまとめ			

2023年度

専門学校北海道福祉・保育大学校 保育未来学科

授業科目 (科目ID)	乳幼児保育Ⅱ		担当教員 (実務経験)	平原 由衣 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 保育士として保育園に勤務	
対象年次・学期	1年・通年		必修・選択区分	必修	単位数 1単位
授業形態	演習		授業回数(1回90分)	15回	時間数 30時間
授業目的	養護及び教育の一体性をふまえ、乳幼児の発育や発達の特異性・関わりの基本、生活や遊び・保育の方法・環境について理解する。				
到達目標	乳幼児の保育において必要な基本的知識・技能の方法について説明し実践できる。				
テキスト・ 参考図書等	講義で学ぶ乳児保育 / 【編著】 小山明子 亀崎美沙子 善本真弓 / わかば社				
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	%	・授業での積極性、グループワークや実技に対する参加意欲(70%) ・レポート、提出物とその内容(30%)		
	レポート	20%			
	小テスト	%			
	提出物	10%			
その他	70%				
履修上の 留意事項	・教科書、プリント資料などを活用し学び、グループワークなどを通して乳幼児の保育への理解を深める。・乳児の模型を使用し保育に必要な演習を行う。				
履修主題・ 履修内容	mana bi	履修主題	履修内容		
	1	・乳児保育の基本 ・子どもと環境	乳児保育の基本について 領域「環境」の理解		
	2	・子どもの発育と発達を踏まえた生活と遊びの実際①	乳幼児の保育環境と遊びについて		
	3	・子どもの発育と発達を踏まえた生活と遊びの実際②	年齢ごとの発育、発達と遊びの内容について		
	4	・子どもの発育と発達を踏まえた生活と遊びの実際③	授乳・離乳・年齢別の関わり方 調乳の方法について		
	5	・子どもの発育と発達を踏まえた生活と遊びの実際④	乳幼児期の食事について		
	6	・子どもの発育と発達を踏まえた生活と遊びの実際⑤	乳幼児期の睡眠の仕組み・大切さについて		
	7	・子どもの発育と発達を踏まえた生活と遊びの実際⑥	乳児期の排泄の特徴 赤ちゃん人形を使い演習(おむつ替え)		
	8	・子どもの発育と発達を踏まえた生活と遊びの実際⑦	赤ちゃん人形を使い着脱の援助・ベビーマッサージ等の演習		
	9	・乳児保育における配慮の実際①	子どもの心身の健康・安全と情緒の安定を図るための配慮について		
	10	・乳児保育における配慮の実際②	集団での生活の配慮について		
	11	・乳児保育における配慮の実際③	乳幼児保育における環境の整備・配慮などについて		
	12	・乳児保育における計画の実際④	全体の指導計画と個人カリキュラム・連絡帳などについて		
	13	・乳児保育における保育園の実際①	保育園における乳幼児保育の実際について		
	14	・乳児保育における保育園の実際②	保育園における計画の実際について		
15	・まとめ	授業の振り返りとまとめ			

2023年度

専門学校北海道福祉・保育大学校 保育未来学科

授業科目 (科目ID)	こどもの保健演習		担当教員 (実務経験)	浦島 葉子 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 幼稚園教諭として勤務	
対象年次・学期	1年・前期		必修・選択区分	必修	単位数 1単位
授業形態	演習		授業回数(1回90分)	15回	時間数 30時間
授業目的	こどもの保健の基礎知識を学び、保育の現場において実践できる力を養う。				
到達目標	こどもの保健の基礎知識を理解し、保育者として実践できる。				
テキスト・ 参考図書等					
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	%	保育現場での実習態度(子どもへの関わり等)・提出物(レポート、日誌)		
	レポート	%			
	小テスト	%			
	提出物	80%			
	その他	20%			
履修上の 留意事項	実習は、真面目に取り組むこと。命をあずかる仕事をするを自覚すること。				
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	こどもの保健とは	オリエンテーション・目的・目標・内容		
	2	こどもの健康と保育の環境	保育所の特性と環境の配慮		
	3	観察実習(1)	保育における健康及び衛生、安全の管理		
	4	観察実習(2)	事故防止および安全対策		
	5	観察実習(3)	災害への備えと危機管理		
	6	観察実習(4)	保育における保健的対応の基本的な考え方		
	7	観察実習(5)	体調不良や傷害が発生した場合の対応		
	8	観察実習(6)	感染症の集団発生の予防と罹患後の対応		
	9	観察実習(7)	3歳未満児への適切な対応		
	10	観察実習(8)	救急処置および救急蘇生法		
	11	観察実習(9)	個別的な配慮を要する子どもへの対応		
	12	観察実習(10)	保育における保健計画および評価		
	13	振り返り	子どもを中心とした家庭・専門機関・地域との連携		
	14	振り返り	職員間の連携と協働		
15	まとめ	評価・反省			

2023年度

専門学校北海道福祉・保育大学校 保育未来学科

授業科目 (科目ID)	保育・教育課程論	担当教員 (実務経験)	浦島 葉子 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 幼稚園教諭として幼稚園に勤務		
対象年次・学期	1年・通年	必修・選択区分	必修	単位数	2単位
授業形態	講義	授業回数(1回90分)	15回	時間数	30時間
授業目的	日々の保育の基本となる保育課程・教育課程(カリキュラム)を学ぶ。また、子ども達のより良い発達を促す効果的で実践的な保育計画について学ぶ。				
到達目標	子どもの理解に基づく保育の過程について学び、その全体像を捉え、指導計画立案が出来る。				
テキスト・ 参考図書等	教育・保育カリキュラム論 千葉武夫・那須信樹 中央法規				
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	70%	定期試験、提出物等の総合評価とする。		
	レポート	%			
	小テスト	%			
	提出物	30%			
	その他	%			
履修上の 留意事項					
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	日本におけるカリキュラムの基礎理論	幼稚園教育要領・保育所保育指針の変遷		
	2	保育における計画	保育計画の意義・PDCAサイクル		
	3	子ども理解に基づく保育の循環	カリキュラム・マネジメント		
	4	保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の性格と位置づけ	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿		
	5	幼稚園の教育課程の編成の基本原則と方法	幼稚園における幼児教育について		
	6	保育所・認定こども園等の全体的な計画の作成の基本原則と方法	全体的な計画とは		
	7	幼稚園の指導計画・保育所・認定こども園の指導計画	年間・月案・週案の理解		
	8	指導案・保育の評価	指導計画作成上の留意事項・子どもと保育者への視点		
	9	0歳児の指導計画	乳児の発達の特徴と配慮		
	10	1歳以上3歳未満児の指導計画	1歳以上3歳未満児の理解と保育内容		
	11	3歳児・4歳児の指導計画	指導計画立案		
	12	5歳児の指導計画	指導計画立案		
	13	5歳児の指導計画	指導計画立案		
	14	小学校との連携	就学前教育との接続について		
15	まとめ	まとめ			

